

のせでん沿線

エドヒガン回廊 2025

ぶらり気ままにお花見ウオーク！



かいろう エドヒガン回廊

エドヒガンは国内に自生するサクラの一種で、長命なこと（大木が多いこと）、開花期が早いこと、樹皮が縦割れすること、花色が多様なこと、枝垂れ形があることなどの特徴を有しています。分布域は東北地方から九州南部と広いのですが、分布地は限られており、ヤマザクラに比べてめずらしいサクラです。六甲山や武庫川流域には一株も見られないエドヒガンですが、なぜか猪名川上流域にはたくさん分布しています。他の樹木が芽吹く前、3月の下旬ごろに里山の枯木立を背景に白、桃、赤に染まった大木のエドヒガン群はまさに「枯木に花」、「冬枯れ里山に花」といった風情です。

「エドヒガン回廊」は能勢電鉄山下駅より始まり、一庫ダム、国崎、黒川、妙見山、妙見口駅を経て、山下駅に戻るルートです。このルートから外れますが、エドヒガンの名所として欠かすことのできない猪名川左岸沿いの水明台『溪のさくら』とエドヒガンの巨木が見事な高代寺山を回廊の飛び地として紹介します。2025年版のエドヒガン回廊をどうぞお楽しみください。

① 川西市水明台 1丁目 猪名川左岸斜面（市天然記念物） 『溪のさくら』（水明台エドヒガンの森）

平野駅前から阪急バスに乗れば程なく水明台一丁目。住宅地に隣接する丘陵地の斜面に130本ほどのエドヒガンが群生しています。猪名川の対岸にはエドヒガン巨木が1本自生しており、この巨木がこの付近のエドヒガン群の母樹と考えられています。2025年の公開日は3/25～4/3の予定です。



① 川西市一庫 字唐松 一庫ダム周辺（市天然記念物）

山下駅より川西市郷土館を過ぎて一庫大路次川に沿って遡って一庫ダムの下へ。ダム東側の山地斜面にエドヒガンが原生しています。エドヒガンの植栽を続けている一庫唐松公園から一庫ダム駐車場への遊歩道を上ると道路向かいの上部の山地斜面にエドヒガン5本が自生。その周囲に20年ほど前から植栽を始めた数十本のエドヒガンが生育しています。



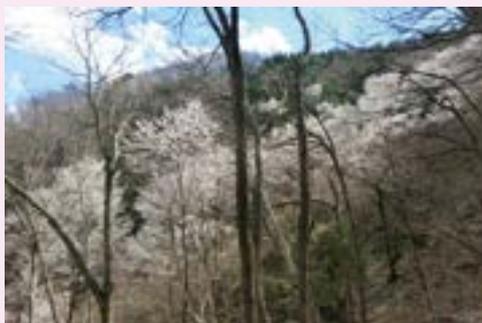
② 川西市国崎 字知明 卯ノ戸 兵庫県立一庫公園（市天然記念物）

一庫ダムの手前より知明湖の右岸を湖に沿って進み、知明さくら橋を渡って一庫公園内に入ると湖岸沿いにたくさんのエドヒガンを見ることができます。公園内には23本のエドヒガンが自生していますが、その中で最大の個体の幹周は1.7m、高さは30mもあり猪名川流域では最高の樹高です。このサクラは「さくらひとくら」と名付けられています。



③ 川西市国崎 字小路 国崎クリーンセンター（市天然記念物）

一庫公園より知明湖沿いに右岸側を北上すると国崎クリーンセンターに着きます。同センターの敷地内の山地にエドヒガン約250本が数カ所に分散して生育しています。猪名川流域ではエドヒガンの生育密度がもっとも高い所です。



④ 川西市黒川 企業の森周辺

国崎クリーンセンターから少し戻って縄手橋を渡り、親水公園に沿って上流側に向かいます。知明湖キャンプ場、黒川ダリア園を過ぎ緩やかな棚田に沿って里山道を北へ進むと「企業の森」入口です。企業の森付近から奥の谷へエドヒガンが散生しています。現在、関係者以外の立ち入りはできません。ご注意ください。



⑤ 川西市黒川字大土 黒川桜の森

企業の森の隣り。市民によって再生したエドヒガン37本の群生する桜の森で最大のエドヒガンは幹周3.9mにも達する「黒川 微笑み桜」です。エドヒガンだけでなくヤマザクラ、カスミザクラもあり、様々なサクラの花を楽しむことができます。国道477号線へ上り、そこから眺めるサクラの競演は見事です。



⑥ 川西市黒川 字大原 妙見の森ケーブル軌道跡

桜の森から国道 477 号線を南下し徳林寺や炭焼き窯跡を過ぎると妙見の森ケーブル黒川駅舎跡が見えてきます。ケーブルの軌道跡周辺の山腹には約 40 本のエドヒガンの大木が自生しています。軌道跡沿いに植栽されたソメイヨシノも含めて山腹を望む景観はすばらしいものです。中でも軌道跡に向かって右側斜面の大木の花色は鮮やかな赤色で、そのサクラは秘かに「さくら くれない」とよばれています。ここでひとまず回廊ウオークを終了。妙見口駅へ下りましょう。

⑦以降は後日、山歩き準備をして歩くことをお勧めします。

※妙見の森ケーブル・リフトは 2023 年 12 月 3 日で営業を終了しました。駅舎・軌道跡等への立ち入ることも出来ません



⑧ 豊能町 上杉尾根

上杉尾根コースの中間付近、展望のいいベンチ付近から見る風景にもエドヒガンが自生しているのがわかります。山道を麓まで下って点滅信号の横断歩道を渡り花折街道を下れば妙見口駅です。



⑨ 川西市笹部の里山

妙見口駅より能勢電鉄に乗って山下駅へ向かいます。笹部駅付近では進行方向右側車窓から山の谷間に自生するエドヒガンやヤマザクラの遠景を楽しめます。笹部駅を過ぎると次は山下駅です。

山下駅に着けば、これでエドヒガン回廊を一周したことになります。全コースを 1 日で巡るのは大変なので、何回かに分けて楽しんで下さい♪

⑦ 川西市黒川 字奥瀧谷 (市天然記念物)

妙見の森各施設の営業が終了したため、黒川駅跡から大堂越(おおうごえ)コースで妙見山へ登ります。『エドヒガン回廊』の中で体力的に最も厳しい区間なのでヤマザクラや台場クヌギ林を眺めながらノンビリ歩きましょう。妙見山のブナ林(大阪府天然記念物・川西市天然記念物)には妙見山周辺のエドヒガンの母樹と思われる巨木が生育しています。妙見山から山上駐車場を経て上杉尾根へ下ってゆくと、右側の斜面には随所にエドヒガンが群生しています。⑦付近の木々の間からは今では間近で見ることが叶わなくなった天然記念物の奥瀧谷のエドヒガン群落を遠望できます。

※妙見の森ふれあい広場など各施設は 2023 年 12 月 3 日で営業を終了しました。敷地内へ立ち入ることも出来ません

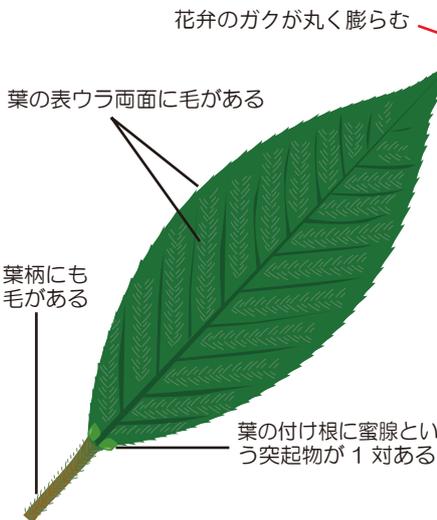


飛 豊能町吉川 高代寺山

妙見口駅から花折街道を上り赤い灯ろうを目印に左折。吉川八幡神社で参拝後、境内にあるハイキング道の案内看板に従って吉川城址から高代寺へ登ります。石段を下りた御神泉の付近に樹齢 400 年のエドヒガンの巨木があります。高代寺から石ころだらけの古い町石道を下ると妙見口駅に着きます。



エドヒガンの特徴

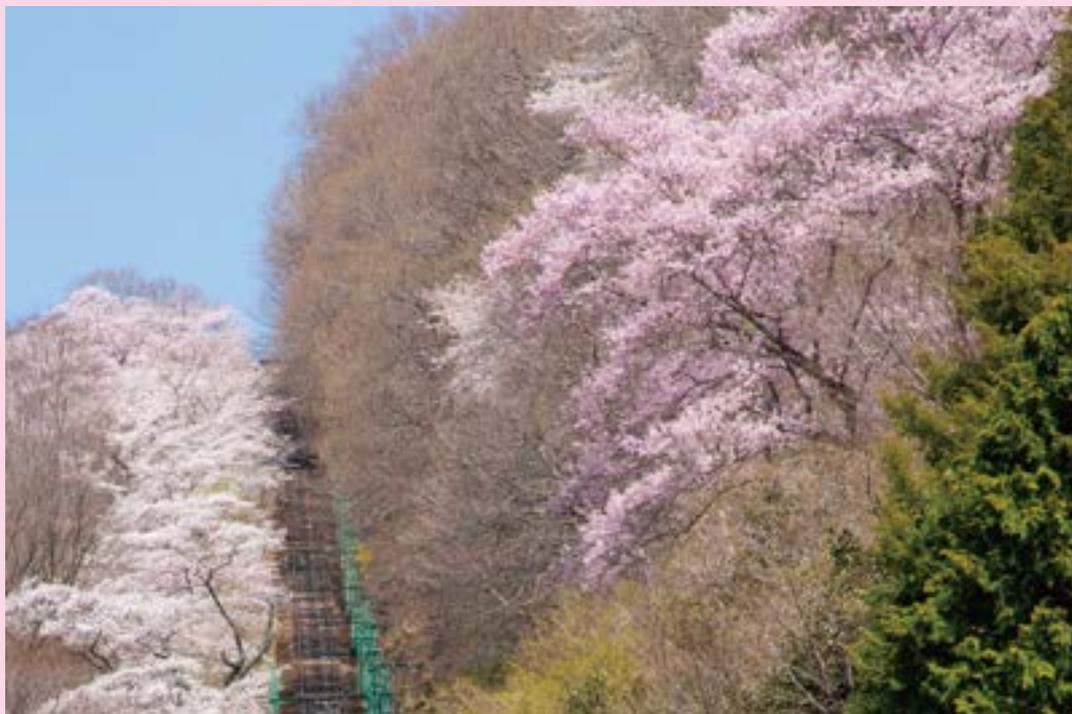


エドヒガンはその名前の通り彼岸の頃に咲くとされ、3 月半ばから 4 月半ばにかけて様々な色合いの花を見せてくれます。

- ・葉は細身で、樹勢も背が高い
- ・樹皮に縦筋が走っている
- ・花弁のガクが丸く膨らんでいる
- ・花弁がソメイヨシノより小ぶり
- ・濃い色や薄い色などさまざま
- ・開花時期もバラバラで開花期間も長め

妙見の森ケーブル軌道跡をそっと見下ろす

さくら くれない (桜紅)



【2022年4月7日 撮影】

エドヒガンはヤマザクラと同様に野生のサクラの一種で、九州から東北まで国内に広く分布していますが、ヤマザクラやカスミザクラと比べると個体数ははるかに少なく、分布する地域に偏りが認められます。兵庫県内では日本海側と猪名川上流域に多く見られます。

猪名川の西隣を流れる武庫川の流域には自生と認められるエドヒガンが1本も発見されていないのは不思議ですね。

ただし、猪名川上流域の全域にエドヒガンが分布しているというわけではなく超丹波帯という地質が広がっている地域を中心に分布していることがわかっています。崩れやすく、裸地を作りやすい超丹波帯の地質特性と裸地に侵入・定着するというエドヒガンの生育条件が合うのでしょう。

妙見の森ケーブル跡一帯の山地の地質もまさに超丹波帯であり、急傾斜で崩壊した小石が堆積した立地に30本

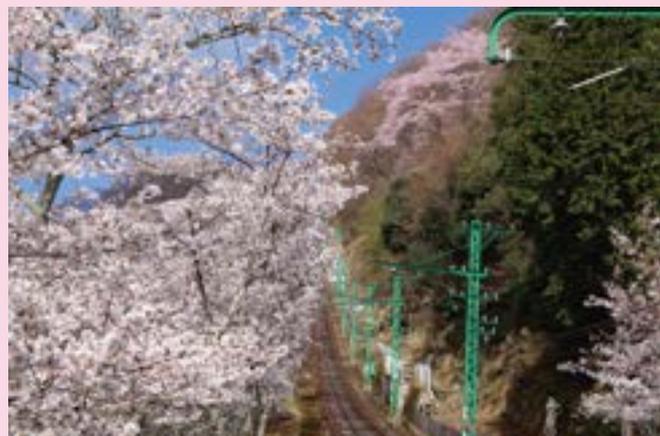
ほどのエドヒガンが自生しています。妙見の森ケーブル跡に沿って植栽されたサクラはエドヒガンとオオシマザクラを交配させて作られたソメイヨシノという園芸品種です。ソメイヨシノは接ぎ木等の栄養繁殖で増やされたので、遺伝子からみると同一個体であり、花色、開花期等に差がなくソメイヨシノの個性を楽しむということはできません。それに対して野生のエドヒガンは花色、花形、開花期、葉形、樹形などにおいてたいへん多様です。妙見の森ケーブル黒川駅舎跡付近から山を望むと白、ピンク、赤の様々なエドヒガンの花色を楽しめます。

さらに、ケーブル軌道跡の海拔差が223mほどあることによって、長期にわたってエドヒガンの花を見ることができるのも当地の特色です。また、軌道跡沿いのソメイヨシノも一緒に楽しむことができます。

黒川駅舎跡からケーブル軌道跡の中間点付近を眺めると、右側山腹斜面にクヌギ林とヒノキ林に囲まれて生育している大木のエドヒガンに目がとまります。そのエドヒガンについては、まだ誰も調査をしていないので正確なことはわからないのですが、おおよそ高さ20mを超えるような大木で、樹形がすばらしいだけではなく、花色の鮮やかさがまわりのエドヒガンやソメイヨシノの花色と比べてひととき目立ちます。近づくことのできない立地に生育しているため遠くから眺めるだけなのですが、このことがこのエドヒガンの神秘的な美しさを際立たせているようです。

このエドヒガンの花の色は鮮やかな赤色なので、このさくらを私は「**さくら くれない (桜紅)**」とよんでいます。

※妙見の森ケーブル・リフトは2023年12月3日で営業を終了しました
駅舎・軌道跡等への立ち入ることも出来ません



【2014年4月4日 撮影】



【2010年4月9日 撮影】※現在は営業していません

本文監修 兵庫県立大学名誉教授 服部 保
制作・発行 能勢電鉄株式会社
お問合せ先 鉄道事業部 営業担当
072-792-7716 (平日9:30~17:00)